

第 6 章

安心・安全 (マナー, セキュリティ, 防災・減災)

第 1 節 スマートフォンのマナー

——歩きスマホ, 食事中的利用…
気になりませんか

第 2 節 スマートフォンのセキュリティ

——スマホのセキュリティ対策は
何をしているのか

第 3 節 防災・減災とICT利活用

——災害時にスマホ・ケータイが
どのような役割を果たせるのか

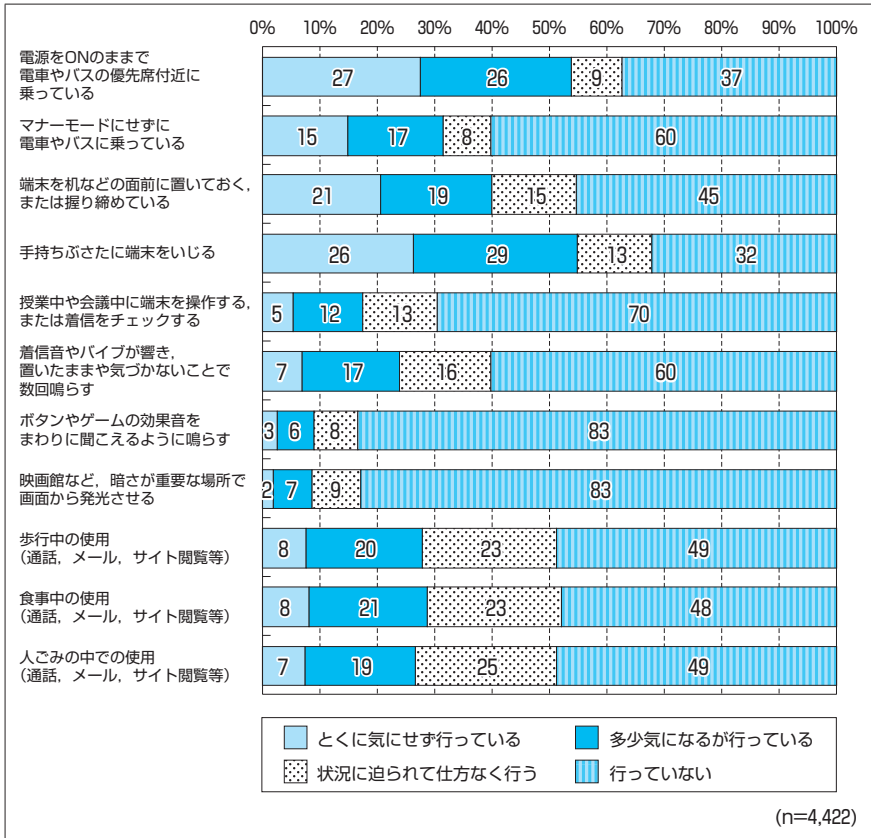
第1節 スマートフォンのマナー

——歩きスマホ，食事中的利用…気になりませんか

◆ポイント◆

- 「場所・時間をわきまえない撮影」「歩行中の急な割り込みや急な立ち止まり」を約9割が不快と思う（資料6-3）。
- 半数が歩きスマホを行っている（資料6-7）。

●「持ちちぶさたに端末をいじる」は7割弱が行っている。

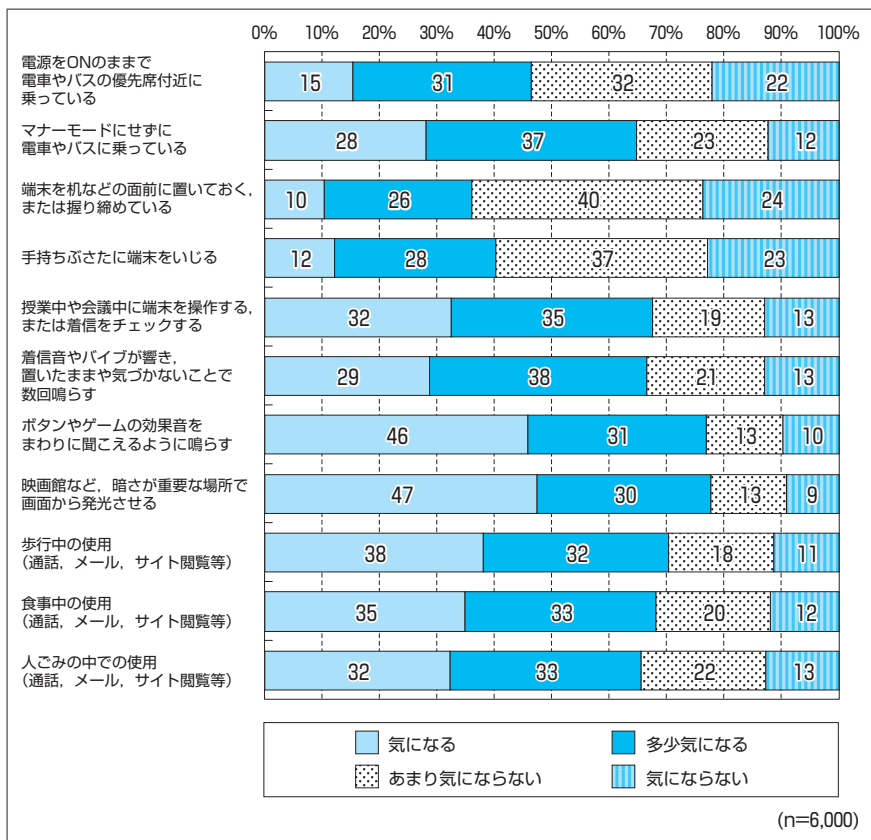


注：スマホを所有している人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-2 他者がスマホを使って行っている行動で気になること (SA)

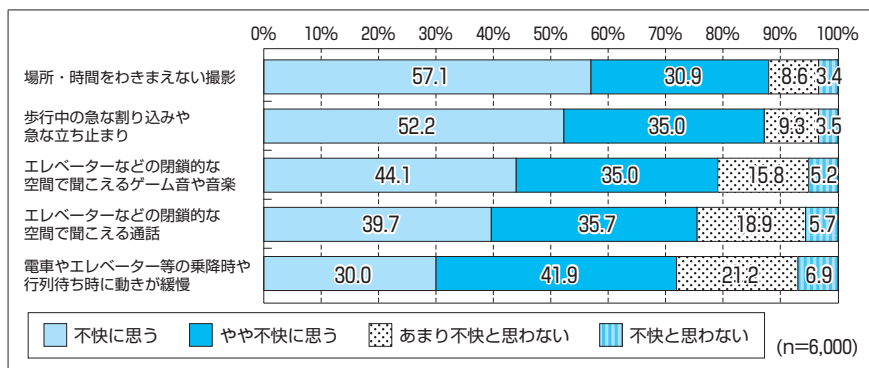
●音や光に関する事項については、多くの人が気になると回答。



出所：2018年一般向けモバイル動向調査

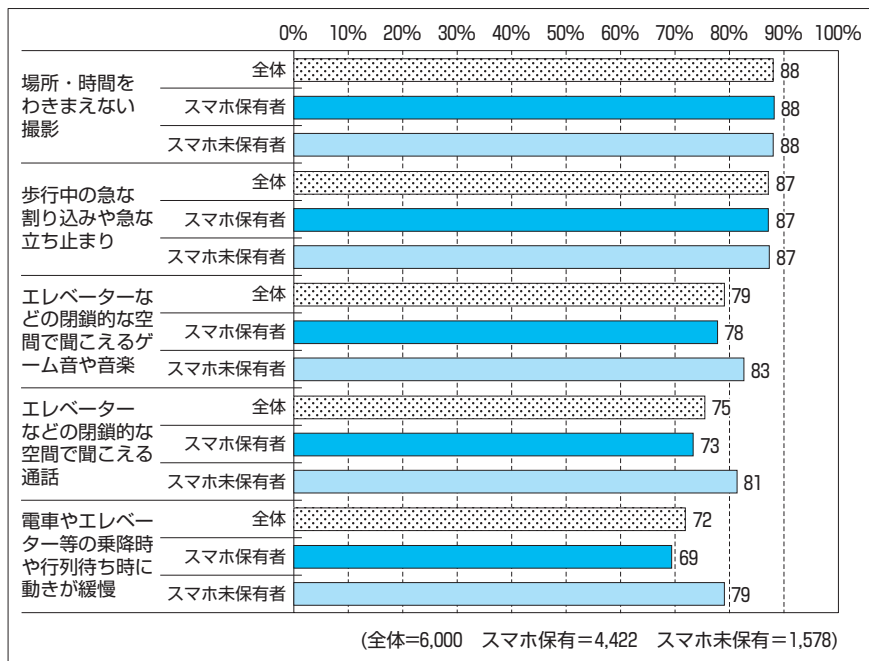
資料6-3 スマートフォンに関わる行動と不快に思う事項（SA）

- 「場所・時間をわきまえない撮影」「歩行中の急な割り込みや急な立ち止まり」は9割弱が不快と感じている。



出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

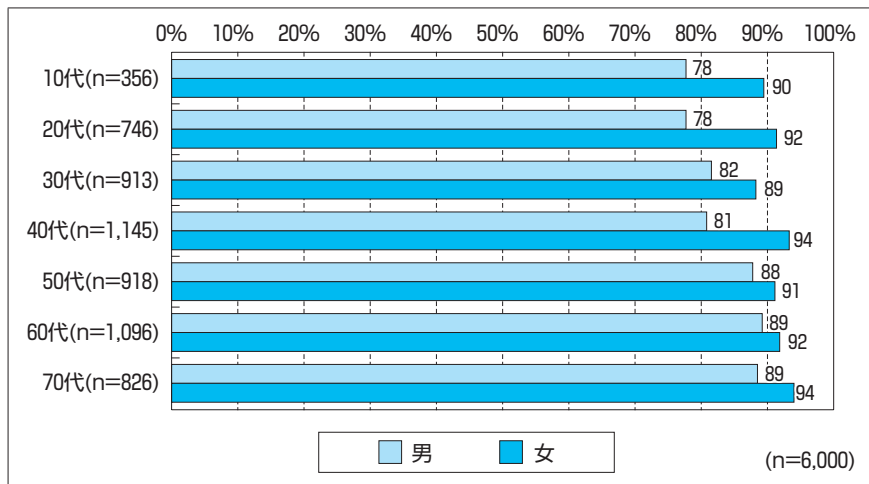
資料6-4 スマートフォンに関わる行動と不快に思う事項 スマートフォン所有別（SA）



出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-5 場所・時間をわきまえない撮影を不快と感じる（SA）

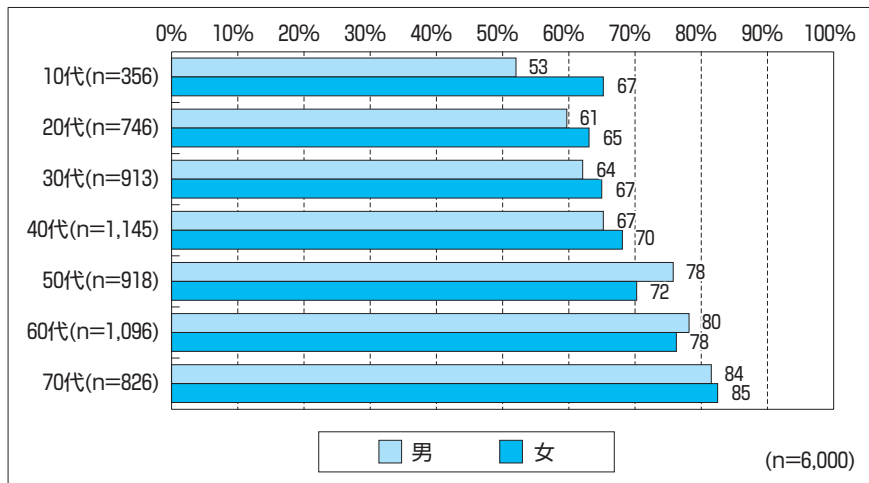
- 全年代、女性が男性より高い。
- 女性は全年代で9割ほど、男性は若年代ほど低い。



出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-6 電車やエレベーター等の乗降時や行列待ち時に動きが緩慢であることを不快と感じる（SA）

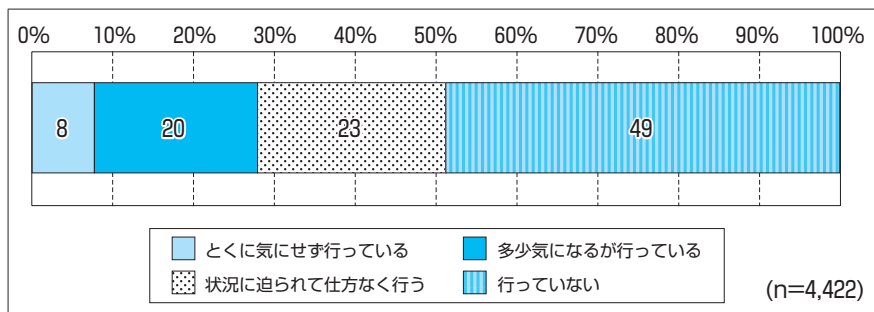
- 高齢層ほど高く、若年層は女性が高い。



出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-7 歩行中のスマートフォンの利用（SA）

- 5割強が歩行中にスマートフォンを利用している。

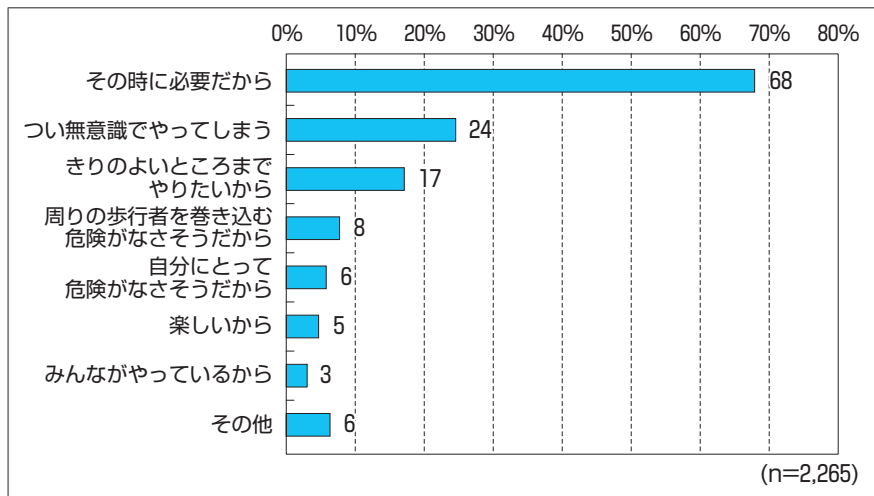


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-8 歩行中のスマートフォンの利用を行う理由（MA）

- 7割弱が「その時必要だから」と回答。

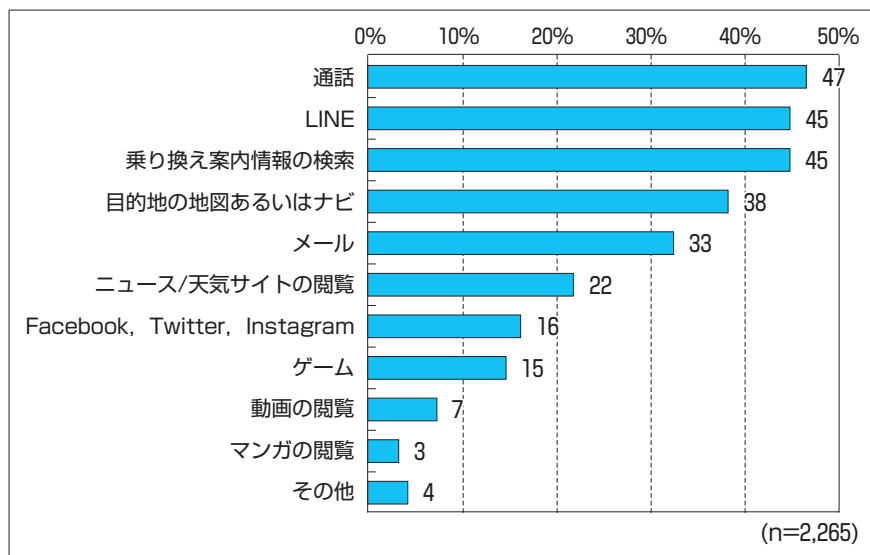


注：スマートフォン所有者の中で、歩行中のスマートフォンの利用を行う人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-9

歩行中のスマートフォンの利用で行っていること (SA)

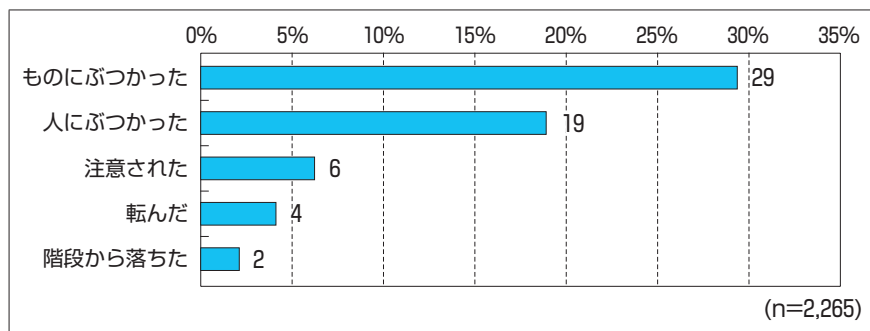


注：スマートフォン所有者の中で、歩行中のスマートフォンの利用を行う人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-10

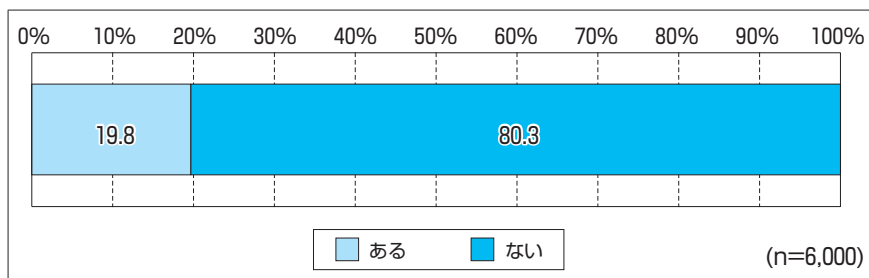
電車やエレベーター等の乗降時や行列待ち時に動きが緩慢 (SA)



注：スマートフォン所有者の中で、歩行中のスマートフォンの利用を行う人が対象。

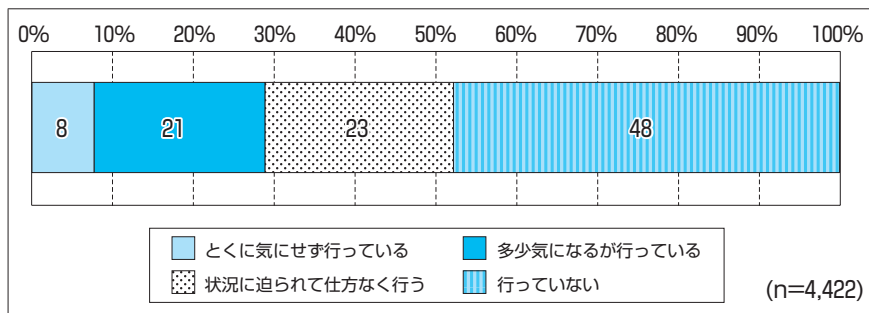
出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-11 歩きスマホを行っている人とぶつかった経験（SA）



出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-12 食事中のスマートフォンの利用（SA）

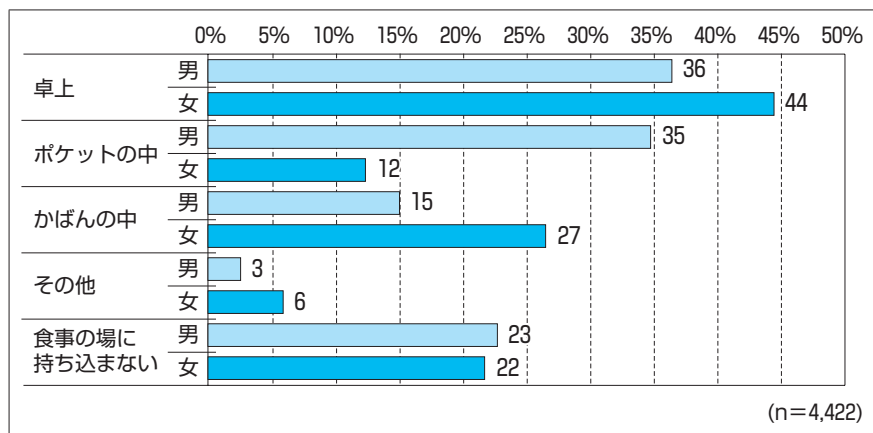


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-13 自宅での食事中、スマートフォンの置き場所 男女別(MA)

- 男性は卓上、ポケットの中がそれぞれ3割程度。
- 女性は卓上が4割強、カバンの中が3割弱。

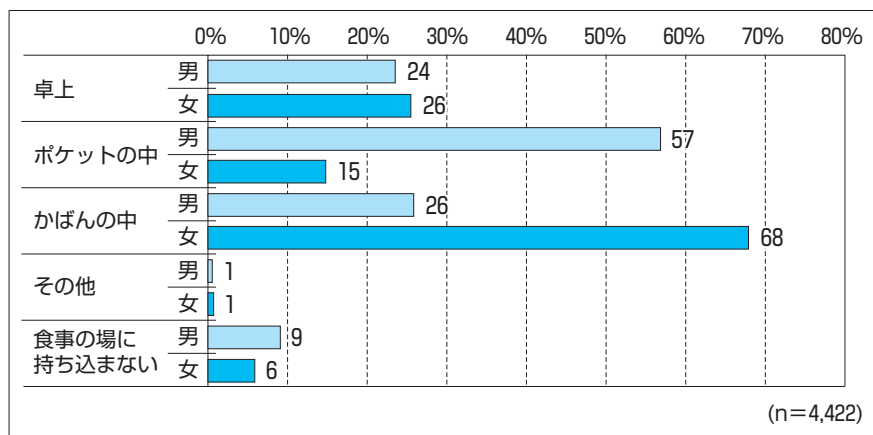


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-14 外出先での食事中、スマートフォンの置き場所 (MA)

- 男性の5割強がポケットの中、女性は7割弱がカバンの中。
- 卓上に置いて食事をする人は、男女とも3割弱。

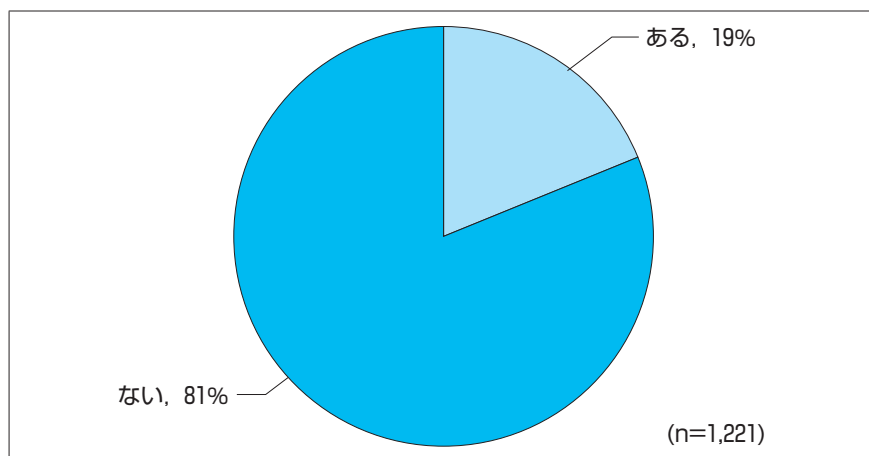


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-15

子どもから食事中にスマートフォンを使用し注意された経験 (SA)

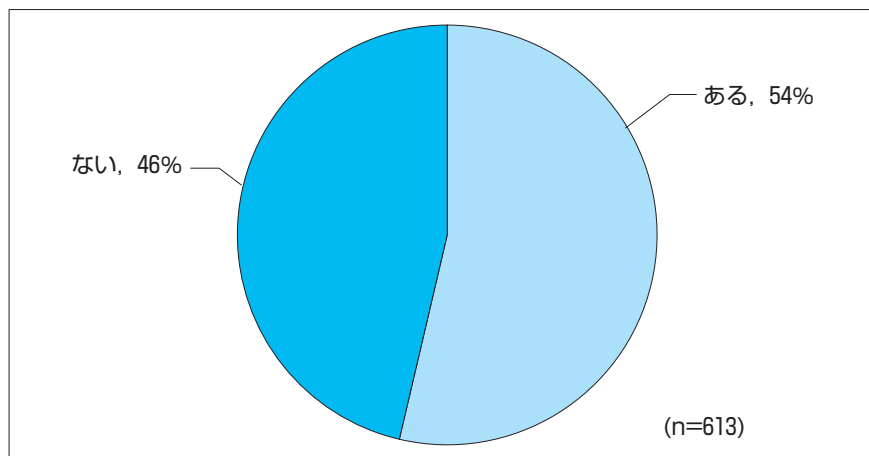


注：高校生以下の子どもと同居している親で、スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-16

子どもが食事中にスマートフォンを使用して注意した経験 (SA)



注：高校生以下の子どもと同居している親で、子どもがスマートフォン所有している人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

第2節 スマートフォンのセキュリティ

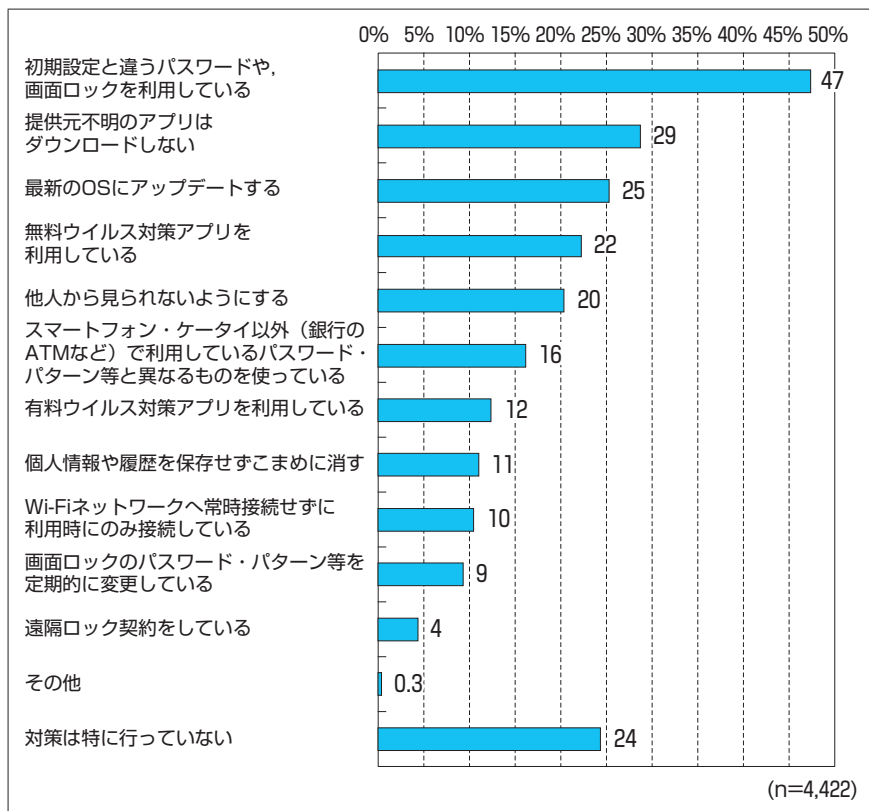
——スマホのセキュリティ対策は何をしているのか

◆ポイント◆

- 4人に1人がスマートフォンのセキュリティ対策を何もしていない（資料6-17）。
- 対策をしない理由として、若年層は「めんどくさい」、高年層は「実施方法がわからない」が高い（資料6-21）。

資料6-17 スマホ・ケータイへのセキュリティ対策 経年対策（SA）

- 4人に1人が何の対策もしていない。

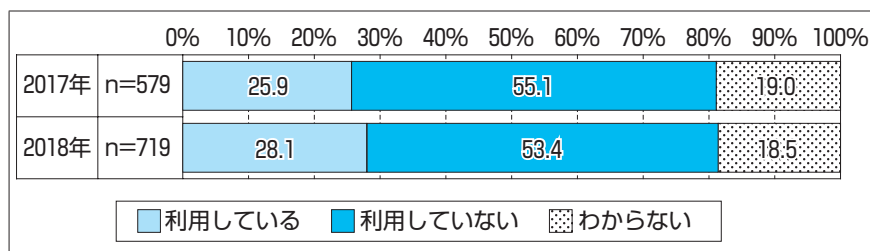


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-18

子どものスマートフォンにフィルタリングを利用しているか (SA)

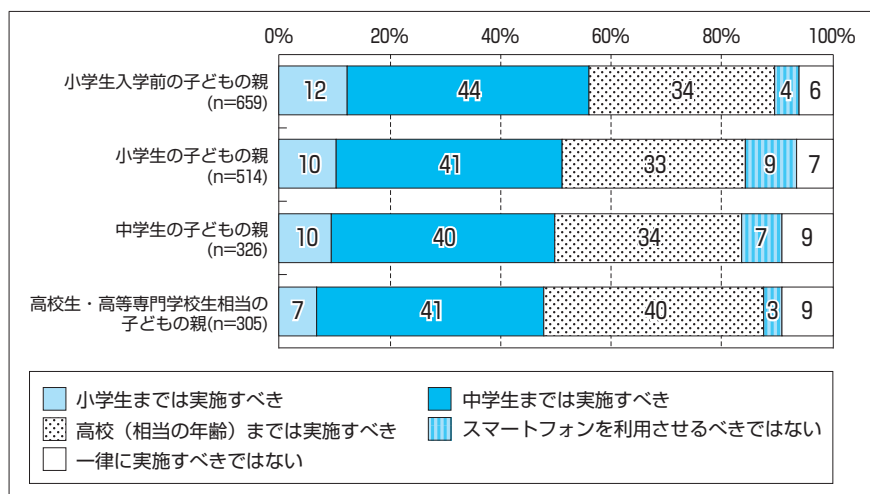


注：高校生以下の子どもと同居している親で、子どもがスマートフォンを所有している人が対象。
出所：2017年-2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-19

いつまでフィルタリングを設定すべきと思うか (SA)

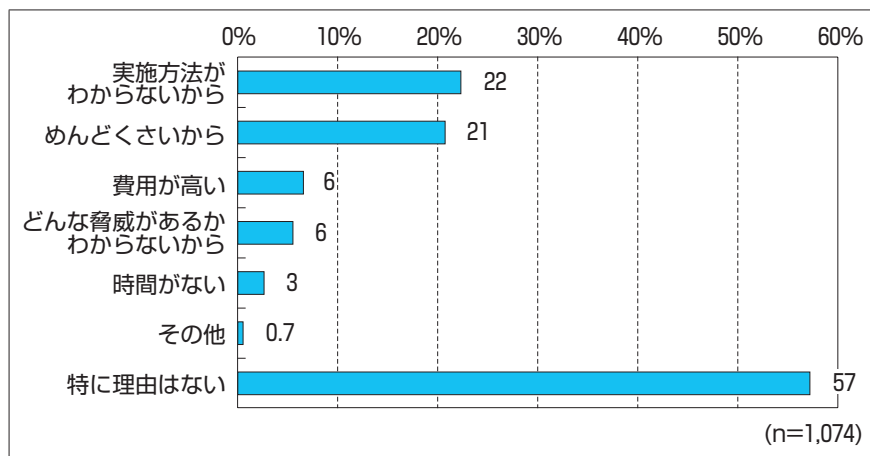
- 7割を超える親は「中学生」「高校」まではフィルタリングを実施すべきと回答。



注：高校生以下の子どもと同居している親で、子どもがスマートフォンを所有している人が対象。
出所：2017年-2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-20 セキュリティ対策を行わない理由（MA）

- 特に理由はないが、6割弱を占める。次いで「実施方法がわからない」「めんどくさい」が2割を超える。

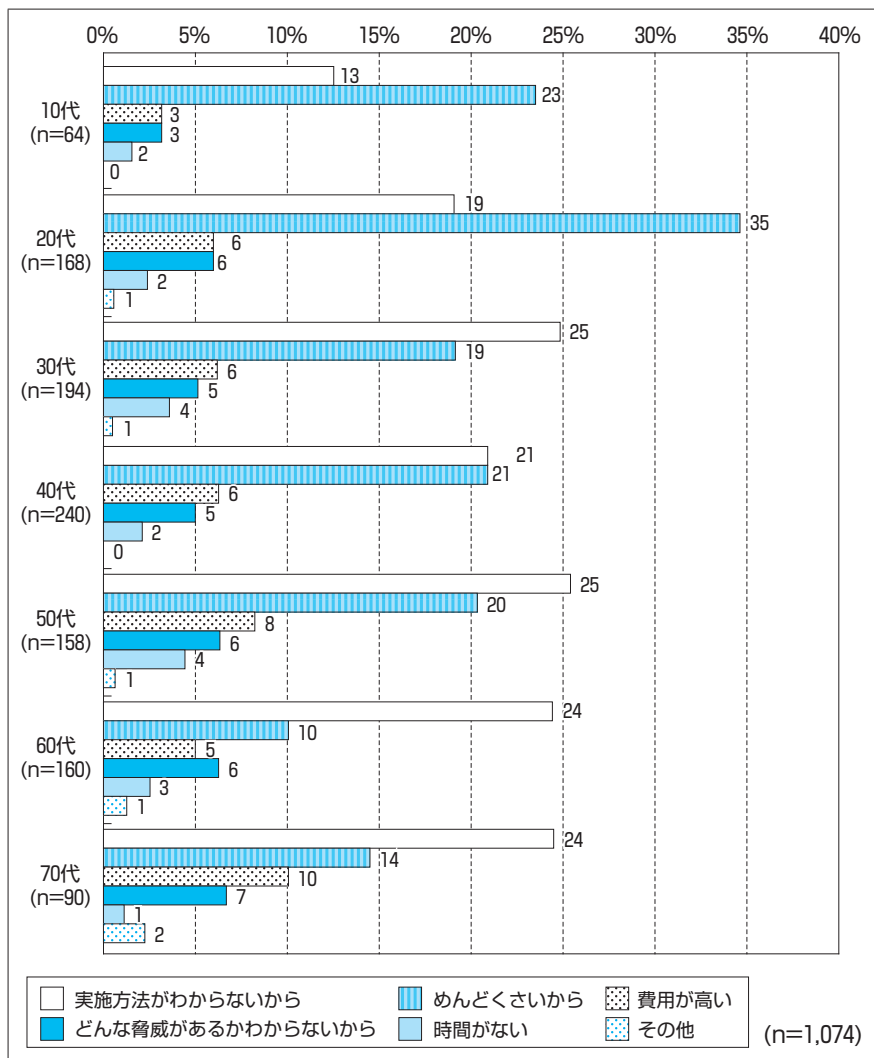


注：スマートフォン所有者の中で、セキュリティ対策を何も行っていない人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

資料6-21 セキュリティ対策を行わない理由 年代別 (SA)

- 若年層は「めんどくさい」、高年層は「実施方法がわからない」が高い。



注：スマートフォン所有者の中で、セキュリティ対策を何も行っていない人が対象。

出所：2018年スマホのマナー・セキュリティ調査

第3節

防災・減災とICT利活用

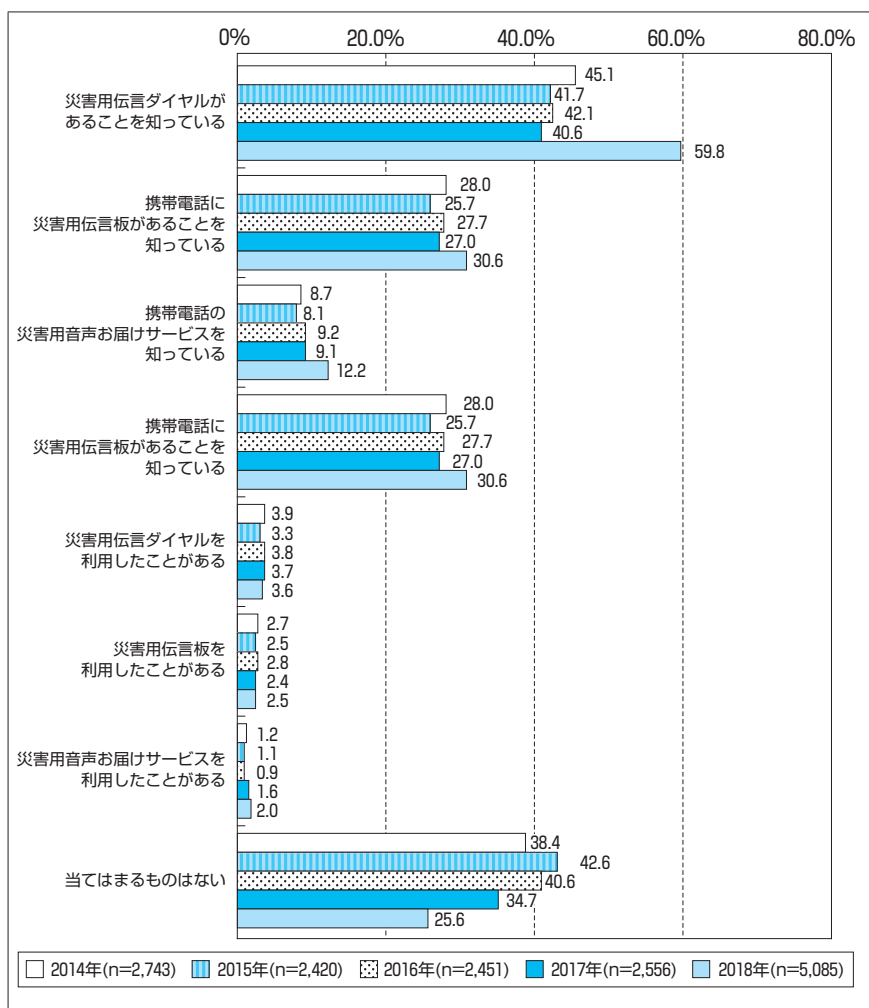
——災害時にスマホ・ケータイがどのような役割を果たせるのか

◆ポイント◆

- 災害情報を得るツール，都市部の若年層は「ICT重視」，中高齢層は「メディア重視」，地方部は「公的・人伝重視」（資料6-26）。
- 同居・別居家族との災害時の連絡方法，約半数が決めていて，その半数が複数の手段を考えている（資料6-31，資料6-34）。

資料6-22 災害時に利用するICTサービスの認知・利用（SA）

- 「災害用伝言ダイヤル」の認知は約6割。
- 2015年以降、「当てはまるものはない」は減少傾向。



注：スマートフォン・ケータイ所有者が対象。

出所：2014-2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-23 在宅時に災害情報を得る主な手段（SA）

- 在宅時に災害が発生した時に、災害情報（安否確認を除く）を得る手段。
- 大別すると、「ICT」「メディア」「公的・人伝」が3等分に分かれる。

（%）

	ICT				メディア		公的・人伝					
	インターネット	エリア・緊急メール	スマホアプリ	SNS	テレビ	ラジオ	防災無線・サイレン	広報車や消防車両	近所の知人・親戚	区長・自治組織	遠方の知人・親戚	半鐘
複数回答	68	45	28	20	71	44	61	49	33	17	12	4
最も重視	17	10	4	2	26	7	19	10	3	2	0	0
	33				33		34					

（n=6,225）

出所：2017年防災・減災調査

資料6-24 在宅時に災害情報を得る手段 年代別（MA）

- 若年層は「インターネット」、中高年齢層は「テレビ」が最も高い。

	20代		30代		40代		50代		60代		70代	
1位	インターネット	70%	インターネット	71%	テレビ	67%	テレビ	71%	テレビ	78%	テレビ	85%
2位	テレビ	62%	テレビ	63%	インターネット	66%	インターネット	69%	インターネット	65%	防災無線	67%
3位	防災無線	59%	防災無線	61%	防災無線	58%	防災無線	59%	防災無線	63%	インターネット	67%
4位	SNS	38%	エリアメール	48%	エリアメール	48%	広報車・消防車	51%	広報車・消防車	59%	広報車・消防車	65%
5位	エリアメール	38%	広報車・消防車	44%	広報車・消防車	42%	ラジオ	46%	ラジオ	51%	ラジオ	57%

（n=6,225）

出所：2017年防災・減災調査

資料6-25 外出時に災害情報を得る手段 年代別（MA）

- 全世代「インターネット」の割合が高い。

	20代		30代		40代		50代		60代		70代	
1位	インターネット	81%	インターネット	82%	インターネット	78%	インターネット	71%	インターネット	65%	家族	64%
2位	家族	54%	家族	52%	家族	48%	家族	51%	家族	56%	インターネット	59%
3位	スマホアプリ	41%	エリアメール	47%	エリアメール	47%	エリアメール	47%	エリアメール	48%	ラジオ	50%
4位	エリアメール	37%	友人・知人	37%	スマホアプリ	38%	ラジオ	42%	ラジオ	45%	エリアメール	47%
5位	友人・知人	37%	ラジオ	37%	ラジオ	37%	スマホアプリ	37%	友人・知人	38%	友人・知人	46%

（n=6,225）

出所：2017年防災・減災調査

資料6-26 在宅時に災害情報を得る手段 年代・都市規模別 (SA)

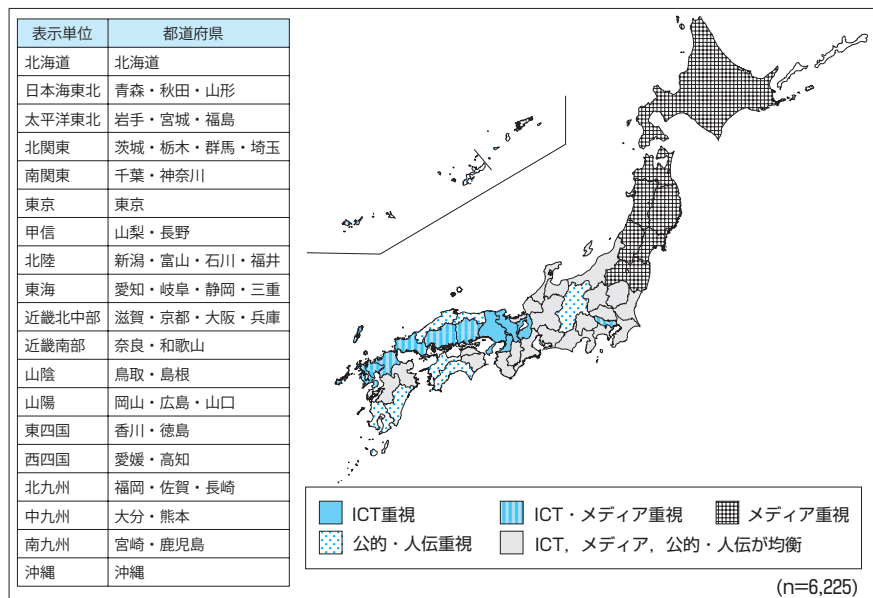
- 「公的・人伝」は小規模都市ほど高い傾向。
- 20～30代は大規模都市ほど「ICT」が、40代以上は大規模都市ほど「メディア」が高い傾向。

年齢	都市規模	ICT	メディア	公的・人伝
20-30	政令指定	47%	29%	24%
	中核・特例	42%	30%	27%
	一般市	41%	25%	34%
	町村	31%	29%	40%
40-50	政令指定	36%	41%	23%
	中核・特例	35%	37%	28%
	一般市	32%	33%	36%
	町村	32%	22%	46%
60-70	政令指定	27%	50%	23%
	中核・特例	25%	38%	38%
	一般市	24%	32%	44%
	町村	17%	25%	57%

(n=6,225)

出所：2017年防災・減災調査

資料6-27 在宅時に災害情報を得る手段 エリア別 (SA)



(n=6,225)

出所：2017年防災・減災調査

資料6-28 安否確認サービスの認知・利用・自信（SA）

- 「災害用伝言板」「災害用伝言ダイヤル」「災害用音声お届けサービス」を1つ以上知っている人は、7割を超える。
- サービスを知っている人の中で、災害時に適切に利用できる人は、2～3割程度に止まる。

	災害用伝言板	災害用伝言ダイヤル	災害用音声お届けサービス	左記のサービス一つでも該当する
知っている	60.6%	41.6%	13.5%	72.6%
利用したことがある（※）	11.3%	11.8%	11.8%	13.2%
災害時	4.3%	3.3%	4.0%	4.8%
体験版	7.3%	9.0%	8.5%	9.1%
災害時に適切に利用する自信がある（※）	23.5%	23.0%	32.3%	—
利用してみたい	65.9%	44.8%	11.9%	86.5%

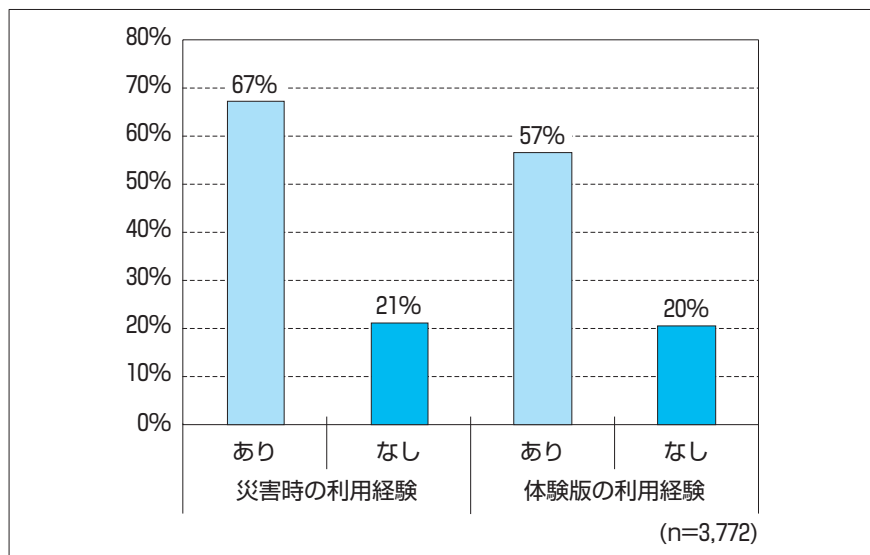
(n=6,225)

注：それぞれのサービスを知っている人が対象。

出所：2017年防災・減災調査

資料6-29 災害用伝言版への自信と利用経験（SA）

- 「災害用伝言板」を体験版でも利用した経験のある人は、ない人と比較し、37ポイントも災害時の適切な利用に自信を持っている。

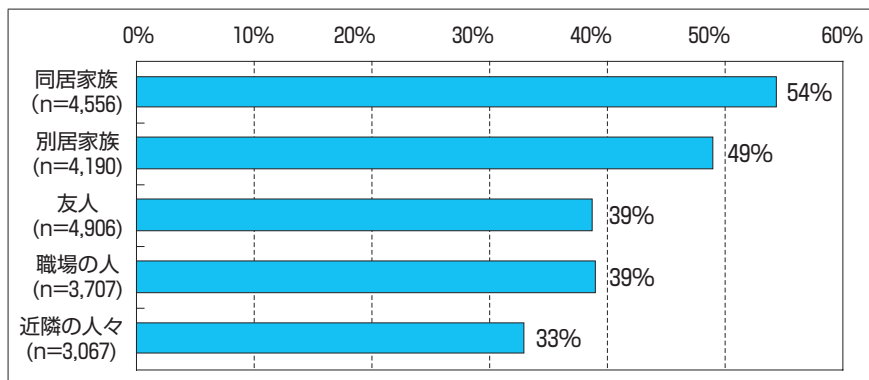


注：災害用伝言板を知っている人が対象。

出所：2017年防災・減災調査

資料6-30 災害時に連絡方法の手段を決めているか (SA)

- 同居家族と災害時に連絡方法を決めている人は5割程度。

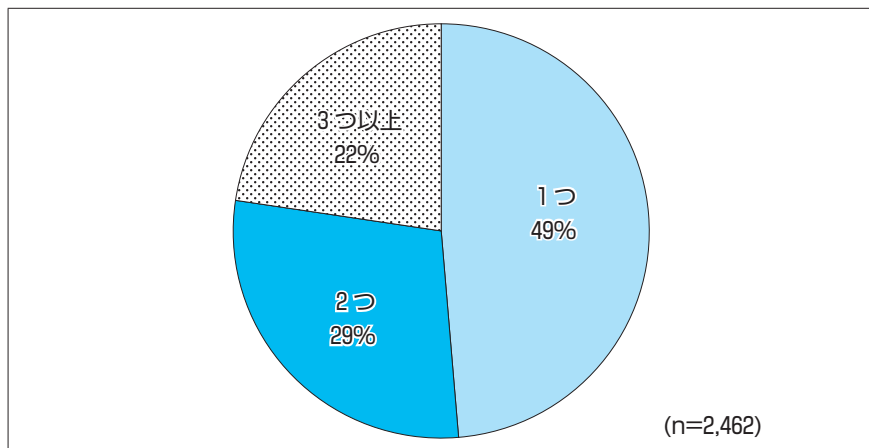


注：それぞれ対象者がいる人が回答。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-31 同居家族と連絡方法の手段をいくつ決めているか (SA)

- 1つ決めている人が5割弱を占める。

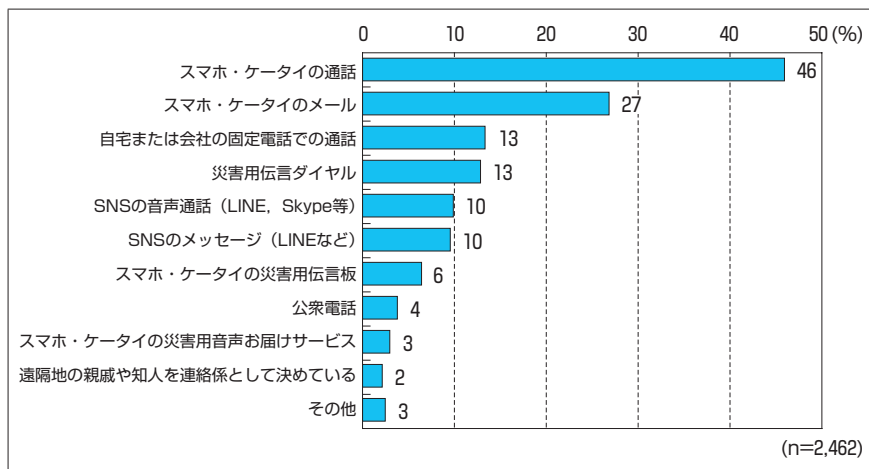


注：同居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-32 同居家族と災害時に連絡をとる手段（MA）

- スマホ・ケータイを使う（通話・メール）が上位。



注：同居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-33 同居家族と災害時に連絡をとる手段 年代別（MA）

- 全世代「ケータイの通話」が1位。
- 若年層はSNSに関わる項目が上位。
- 高齢層になると、「固定電話」が上位に入る。

年代	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
10代	スマホ・ケータイの通話	63%	SNSのメッセージ	33%	SNSの音声通話	30%	スマホ・ケータイのメール	30%	固定電話	13%
20代	スマホ・ケータイの通話	60%	スマホ・ケータイのメール	24%	SNSの音声通話	22%	SNSのメッセージ	18%	災害用伝言ダイヤル	17%
30代	スマホ・ケータイの通話	67%	スマホ・ケータイのメール	38%	SNSの音声通話	18%	SNSのメッセージ	17%	災害用伝言ダイヤル	17%
40代	スマホ・ケータイの通話	70%	スマホ・ケータイのメール	42%	災害用伝言ダイヤル	21%	固定電話	15%	SNSの音声通話	15%
50代	スマホ・ケータイの通話	69%	スマホ・ケータイのメール	46%	災害用伝言ダイヤル	16%	固定電話	16%	SNSのメッセージ	17%
60代	スマホ・ケータイの通話	70%	スマホ・ケータイのメール	45%	固定電話	20%	災害用伝言ダイヤル	20%	SNSの音声通話	9%
70代	スマホ・ケータイの通話	63%	固定電話	39%	スマホ・ケータイのメール	39%	災害用伝言ダイヤル	21%	災害用伝言板	10%

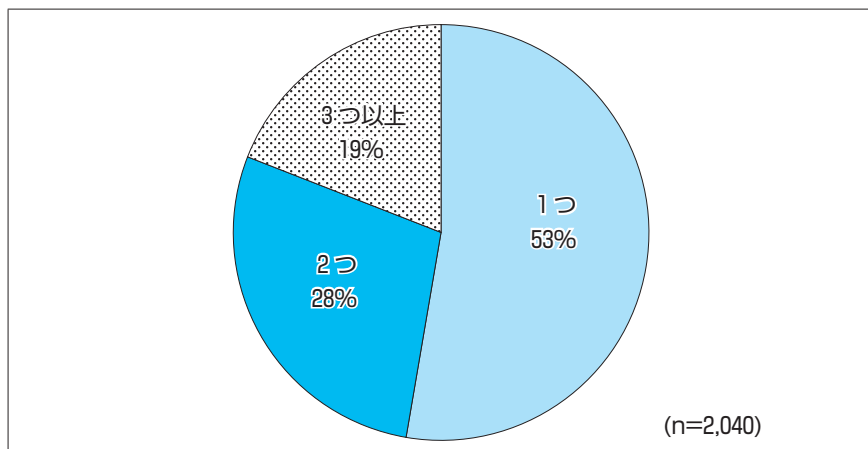
(n=2,462)

注：同居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-34 別居家族と連絡方法の手段をいくつ決めているか (SA)

- 1つ決めている人が5割強を占める。

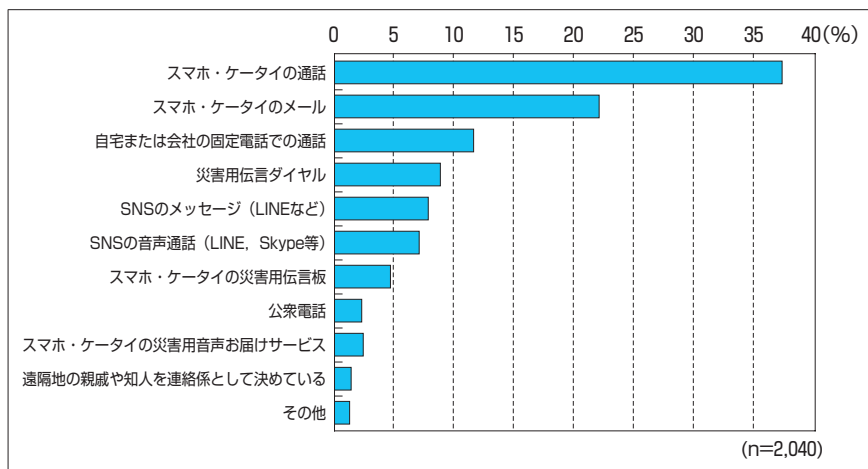


注：別居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-35 別居家族と災害時に連絡をとる手段 (MA)

- スマホ・ケータイを使う（通話・メール）が上位。



注：別居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

資料6-36 別居家族と災害時に連絡をとる手段 年代別（MA）

- 全世代「ケータイの通話」が1位。
- 若年層はSNSに関わる項目が上位。
- 中高年層になると、「固定電話」が上位に入る。

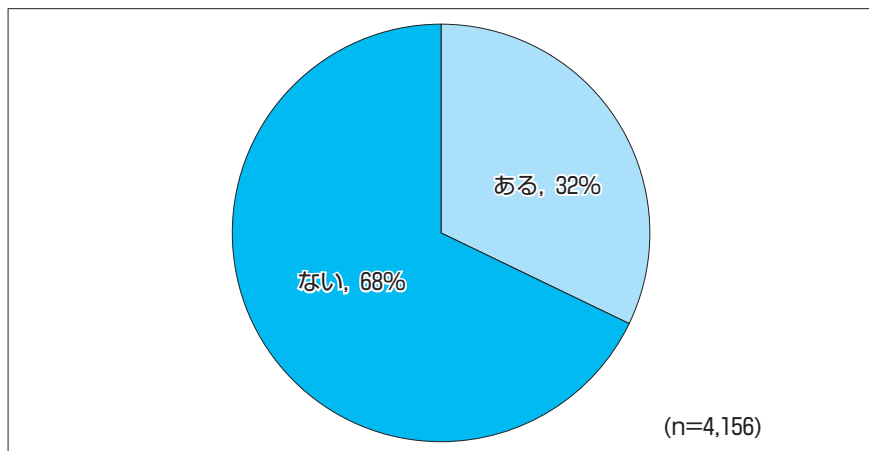
年代	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
10代	スマホ・ケータイの通話	53%	SNSのメッセージ	26%	SNSの音声通話	20%	スマホ・ケータイのメール	12%	災害用伝言ダイヤル	10%
20代	スマホ・ケータイの通話	55%	スマホ・ケータイのメール	29%	SNSのメッセージ	19%	SNSの音声通話	18%	固定電話	14%
30代	スマホ・ケータイの通話	64%	スマホ・ケータイのメール	33%	SNSのメッセージ	20%	SNSの音声通話	20%	災害用伝言ダイヤル	16%
40代	スマホ・ケータイの通話	70%	スマホ・ケータイのメール	38%	固定電話	15%	災害用伝言ダイヤル	13%	SNSのメッセージ	11%
50代	スマホ・ケータイの通話	67%	スマホ・ケータイのメール	43%	固定電話	16%	SNSのメッセージ	16%	SNSの音声通話	14%
60代	スマホ・ケータイの通話	65%	スマホ・ケータイのメール	45%	固定電話	22%	災害用伝言ダイヤル	16%	SNSのメッセージ	11%
70代	スマホ・ケータイの通話	62%	スマホ・ケータイのメール	38%	固定電話	35%	災害用伝言ダイヤル	19%	災害用伝言板	8%

(n=2,040)

注：別居家族がいる人で、災害時の連絡手段を決めている人が対象。

出所：2018年一般向けモバイル動向調査

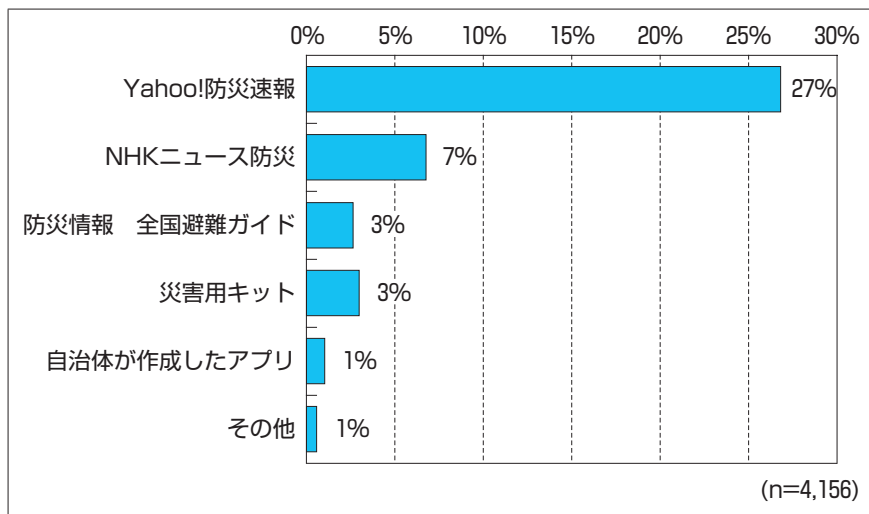
資料6-37 スマートフォンへの防災系アプリのインストール率（SA）



注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2017年防災・減災調査

資料6-38 インストールしている防災系アプリ (SA)

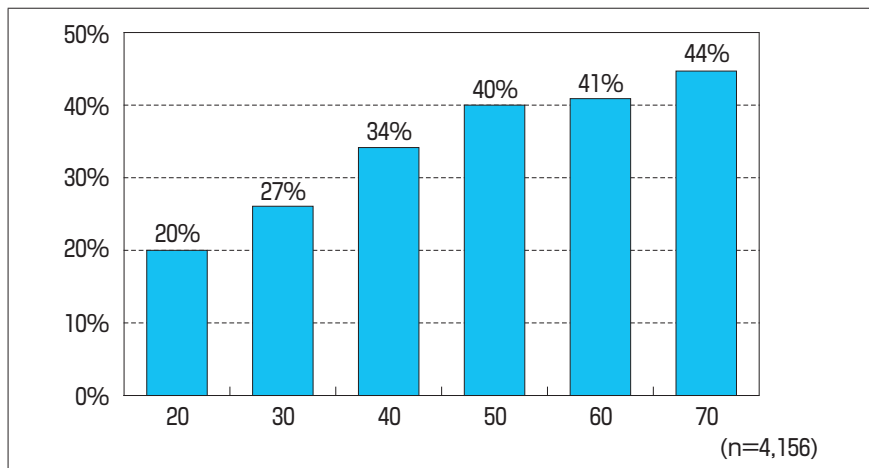


注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2017年防災・減災調査

資料6-39 防災系アプリのインストール 年代別 (SA)

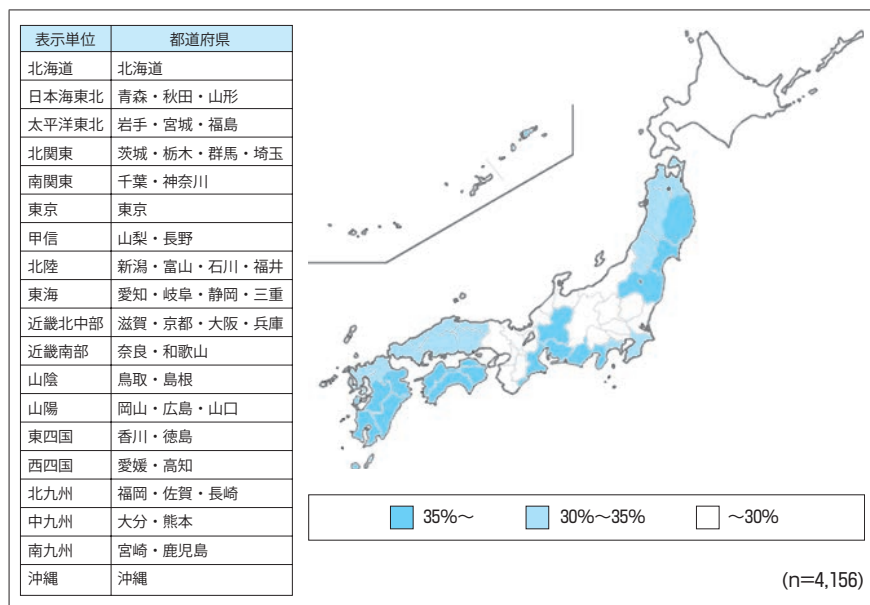
- 年代が高いほどインストールが高い傾向。



注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2017年防災・減災調査

- 防災意識が高い、あるいは高齢化率が高いエリアはインストール率が高い傾向。



注：スマートフォン所有者が対象。

出所：2017年防災・減災調査

防災・減災のためにスマホの活用

——テレビ放送と同時にみることができるアプリ

今回の調査においても、災害時にテレビを頼りにする人は多かった。しかしながら、災害は外出中に発生する場合もあれば、在宅時に発生しても停電により、テレビが見られない場合が多々ある。

NHKニュース・防災アプリでは災害時にはテレビ放送をスマートフォンで視聴することができる。また、放送時にはプッシュ通知でお知らせしてくれる。

資料C3-1

放送同時提供やライブカメラ



さらに、3ヶ所地点を登録することができ、「気象の警報」や「避難情報」、「熱中症情報」などを通知してくれる。筆者も、自宅、実家、職場を登録している。出張中などに自宅のあるエリアに気象警報が出されたときなど、即座に知ることができ、重宝している。また、こういった情報をいち早く知る

ことは、早期警戒・避難誘導など、防災面から見ても有益である。

アプリ内には、「NHKラジオらじる★らじる」へ遷移するコンテンツもある。今回の調査においても、高齢層中心に「ラジオ」への支持が強く、このアプリをインストールすることで利用することができ、災害時への活用も期待できる。

当アプリはニュースや天気を閲覧することができ、平時でも利活用できる。災害時に慣れていないツールやアプリの利用は、困難である。普段使っているサービスを災害時にも利用することが理想である。また地震情報など受信したときの連絡方法など家族や職場の人と話し合っておくことが、最大限情報を活用するために、肝心ではないだろうか。

資料C3-2 NHKニュース・防災アプリ



詳しくは次のURLを参考：https://www3.nhk.or.jp/news/news_bousai_app/